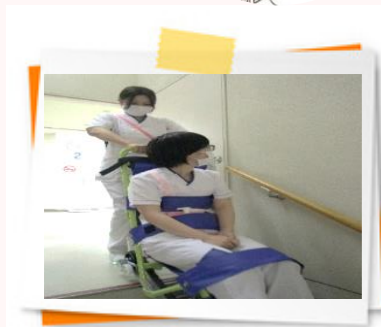


新人看護師基礎研修「一年間の振り返りと今後の抱負」

3階病棟 坂本

一年を振り返ると、新しい環境や実際の臨床現場に戸惑い慣れることに精一杯でした。実際に、看護師として患者さんを受け持つことの責任を実感出来ました。自分の業務に集中しすぎて、あまり周囲のことをみることができず、患者さんや先輩方に迷惑をかけてしまうことがありました。そんな中先輩方が優しく声をかけてくださり、分からないことや困ったことなど、丁寧に指導してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、先輩方のように業務を行いつつ、周りを見ながら責任を持って患者さん対応ができる看護師になりたいと思います。



「慢性心不全看護認定看護師」取得しました

4階東病棟師長 皮籠石



令和5年7月～令和6年2月まで北里大学で、認定看護師(CN)育成カリキュラムを経て、11月に認定看護師審査に、無事合格いたしました。CNを目標にして10年近くの歳月が過ぎましたが、その間に心不全における治療も様々変化しています。心不全は治癒することではなく、再発の度に心筋へダメージを受ける為、予防が重要と考えました。CNとして、再発の予防と患者が望むケアが提供できるように関わっていこうと考えています。



<2024年度 看護研究発表会> 感想と今後の課題



研究テーマ：人工膝関節置換術後の早期離床に対する取り組み

3階病棟 発表者：森

今回TKA術後の離床に関して2・3日目に尿道留置カテーテルを抜去し、離床をしている現状とパス上の離床日に差があることに焦点を当てました。離床を妨げる要因と思われていた疼痛は術中・術後の薬剤の調整により、離床を妨げる直接的な要因ではないことが分かりました。看護師へのアンケート結果から、パス通りの離床に対して意識が低い現状が明らかになり、研究結果を今後の看護提供に繋げ早期離床の実践を目指していきたいと思えます。



研究テーマ：心電図モニターの不適切アラームに関する現状調査

4階東病棟 発表者：高野

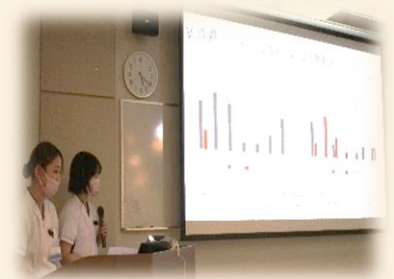
4階東病棟では心電図モニターの不適切アラームについて現状把握を行い、日々のケアの中で行える管理を習慣化出来るよう取り組みました。分析をする中で、アラーム総数・不適切アラームの多さに驚きながらも、指導内容を考え病棟内で取り組めるよう対応していきました。反省点は多々ありましたが、不適切アラームの減少への取り組みは重大アラームの把握漏れ防止にもつながるので、今後も病棟での取り組みを継続していきたいと思えます。



研究テーマ：病棟における身体拘束軽減に向けた取り組み ～フローチャートを導入して～

4階西病棟 発表者：竹原

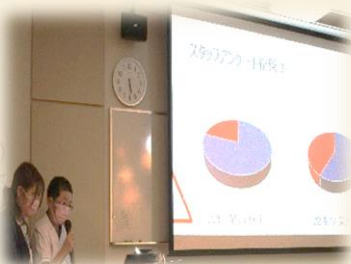
4階西病棟では、身体拘束の開始から解除にむけてのフローチャートを導入し、身体拘束件数が前年度より減少できるか取り組みました。フローチャートを作成して取り組む中で、業務量や経験年数に左右される事なく解除に向けて統一した対応をとることが出来ました。今後、やむおえず行う身体拘束の開始時から解除に向けて、多職種と連携し継続的に病棟全体で取り組んでいきたいと思えます。



研究テーマ：消灯時間の延長に伴う患者の睡眠状況と看護師の意識の変化

回復期リハビリテーション病棟 発表者：村岡

回復病棟は、消灯時間の延長に伴う患者の睡眠状況と看護師の意識の変化について研究に取り組みました。対象患者が異なる事、ナースコール以外でも覚醒している患者もおり、必ずしも効果的な入眠へつながったとは言えません。しかし、ナースコール数も減少しており、消灯時間の延長が患者の睡眠（入眠）に効果があったのではと考えています。また、看護師は、消灯前の時間に余裕ができ、ゆとりをもって対応ができ、それが不穏の予防や睡眠促進に繋がるのではないかと考えられました。今後も、患者の睡眠パターンを考慮したケアが出来るようにしていきたいと思えます。





研究テーマ:せん妄予防に対する看護師のケア介入

～せん妄アセスメントを用いたせん妄予防に対する個別的介入を目指して～

HCU病棟 発表者:久保

せん妄アセスメントシートを使用し、ブロックカンファレンスの定着を図ったことにより、スタッフのせん妄予防についての意識が高まりました。HCUにとってせん妄予防対策は重要で、今後は多職種や一般病棟とも連携し取り組んでいくことが必要と考えています。また、せん妄発生については、せん妄の評価ツールを使用してせん妄発生率の推移を把握していくことが必要があると思われ、継続した取り組みを行っていきます。



研究テーマ:患者の声を届けるために外来看護師の取り組み

外来 発表者:福永

今回、外来では外来患者の不安や困りごとへの介入について取り組みました。多忙な業務の中で、症状や病状の問診は行っていますが、不安や困りごとについては積極的に関わっていない現状がありました。アンケートやカンファレンスを開催し、患者の自宅での不安に触れ、外来看護師として、今後も不安や生活での困りごとについて積極的に関わり、多職種と情報を共有する事の大切さを実感しました。看護研究を通して、外来看護師としての役割を振り返り、今回の取り組みを継続していきたいと思えます。



研究テーマ:ロボット支援下手術導入への看護師不安の軽減に対する取り組み

手術室 発表者:刀根

ロボット手術を導入するにあたり、手技書作成など看護師の不安軽減に対する取り組みについて看護研究を行いました。手術手技が確立する中で、看護師の不安内容も明確になり、それについてアプローチした手技書作成が出来たと思えます。

今後は、手技書の改訂を行い、看護師の不安軽減ができるような継続的な取り組みが課題と考えます。



研究テーマ:入退院支援の推進に向けた組織強化と今後の課題

PFM 発表者:有川

近年の医療施策やCOVID-19流行など、大きな社会情勢の変化に対応できる入退院支援を推進するためには、自部署の組織としての強化が必要と考え研究に取り組みました。COVID-19流行前後の病床運営状況を踏まえて、今後の課題を明らかにしました。感染が蔓延していた当時は、試行錯誤の連続で振り返る余裕がなかったのですが、今回の研究を通して、PFMの必要性や院内外の連携・協働の重要性が再確認でき、今後更なる入退院支援の推進に取り組んでいこうと決意を新たにしています！





今回、2年目の研修としてグループで課題をみつけ、その対策を検討しまとめてポスターを作成しました。初めにテーマを決めるために話し合い、テーマが決まった後、内容を検討していきました。しかし、メンバーが違う部署に勤務しているため、なかなか集まる機会がなくグループ活動の難しさを改めて感じました。内容の検討では、それぞれが取り組むため重複したり、統一性がなかったりと、まとめるのが難しいと思いました。また、平等に役割分担ができず、数名に負担がかかることもありましたが、最後は全員で協力し課題を成し遂げられました。私はグループ活動が苦手です。今回の研修で、計画的に効率よくグループ活動を行うにはどのようにしたら良いかを考えるきっかけができました。こえからの自分の課題として取り組んでいきたいと思いました。

ラダー I (在宅訪問) 報告会：1/22

3階病棟 土川

今回、胃瘻造設した患者・家族との退院指導を通して、より具体的に在宅での生活を考える事ができました。胃瘻造設後、自宅退院に向け、注入方法や物品の使用方法など説明しました。本人の希望もあり、差し込み便器の当て方の練習も行いました。家族は介護に協力的であり、時間のある時には積極的に来院され、技術を身に付けられました。退院調整カンファレンスにも参加し、在宅に戻るには、訪問看護やヘルパー、カクイックス、酸素業者など多くの方の関わりが必要であることが分かりました。実際に自宅訪問してみると、本人は自宅に帰れて安心した様子でしたが、家族は「注入はたくさん練習したから困ったことはなかったが、こんなに本人の訴えが多いとは知らなかった」と話してくださいました。退院指導を行っていましたが、私自身が自宅での生活をイメージ出来ていなかったことで十分な指導に繋がっていきなかつたことを反省しました。今後について、本人・家族の意向を聞き、自宅での生活をイメージしながら関わっていきたいと思います。

<2025年度看護部教育について>

副看護部長 久留須

4月より教育方法の一部を変更致します。今回は変更内容について説明します。

【e-ラーニング・集合研修】

「学研ナーシングサポート」から、「S-QUE研究会」へ変わります

S-QUEのe-ラーニングは、クリニカルラダーごとに研修のカリキュラムが構成されています。よってラダー別の集合研修にも役立てられると考えております。

コースは、ラダーI～IV、新人看護職員研修、看護管理者のためのマネジメントラダー別研修、看護補助者の更なる活用のためのコースがあり、それぞれのレベルに応じた研修となっています。

【新人看護師研修】

ローテーション研修の仕組みを変更します。4月は、急性期3病棟を1週間ごとで体験し、5月～2年目終了時期まで同一部署に配属、3年目にローテーションを行い、1年配属し、4年目に最終的な部署配置の方針とします。

看護職の倫理綱領には「看護職は、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める」とあります。

専門職としての自覚をもち、次年度も積極的に研修受講をお願いします。

<編集後記>

今年度もあっという間に3月になりました。心新たに新年度を迎えられるよう、心身ともに整えていきましょう！

2024年度教育活動へのご協力ありがとうございました。

2025年度もよろしくお願いいたします。

(轟原)